

おわりに

毎日一回、各教室を廻っていると元気な声が教室やオープンスペースに響いてきます。学年によって差はありますが、子ども達が自ら発言し、友達の発言に耳を傾け、それに対してまた発言をする。本年度から始まった研究「考える子を育む－問いがつながる授業－」の一端です。

昨年度まで4年間は、研究主題「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」に取り組んできました。この研究では、「聞き合い」に主眼を置き、聞き合いの可能性を見据えた実践的研究でした。その結果、自分の考えを主張することばかりに意欲的な傾向が見られた子ども達が、友達の考え方も受容的に受け入れ、自分の固定した考えではなく友達の多様な考え方も受け入れることができるようになってきました。

しかし、多様な考えを受け入れるようになった児童は、他の考えを受容的に受け入れることが出来ても、その考えについて「どうしてそう考えるのか」「そう考える根拠は何か」「私の考えとは〇〇が違う」など追求する児童の声は多くはありませんでした。もっと友達の意見に対して追求することが出来れば、考えが深まり見方が拡がり児童の力を伸ばす場面を作り出すことが出来るはずであるのに。今までは教師が意図的にそのような場面を作り出していましたが、児童が自ら児童の意識の流れで問いを繋いでいくようになれば、もっと児童の力は伸びるのではないかと考えました。

そこで今年度は、「考える子を育む－問いがつながる授業－」という研究テーマを掲げ、児童が友達の発言に対して問いを繋げていくことで自ら考えを深めたり拡げたりすることが出来ないかと考え、研究をスタートさせました。

最初、問いを繋げる児童の具体的な姿が見えずに研究会でも疑問の声が上がっていました。また、各教科での問いが繋がるとはどのような姿なのかも見えずに各教科で暗中模索の日々を経てきました。話し合いを重ね、授業での実践を試みることで徐々にその研究の形が見えるようになってきました。とは言うものの研究は一朝一夕に成るものでもありません。まだまだ始まったばかりの研究です。授業をご覧になったたくさんの方々からの、授業のあり方、問いを繋げる児童の姿、教師の指導等をご覧いただき、みなさま方からの忌憚のないご意見、ご指導を頂ければ、本校の研究を後押しする力になります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校
副校長 的場 茂樹

研究紀要 第68集

平成26年11月 印刷発行

編集代表 山 本 一
発行所 金沢大学附属小学校
印刷所 株式会社 谷 印刷

©2014 金沢大学附属小学校
無断転載・複製を禁じます。